

(発行所) 北海道足寄郡足寄　とかち新聞社

この地帯の開発に
保守も革新もない

「これまで道議への野心もなかつた岡崎さんが無理に推し出されたような格好だ、決意をした直接の動機は――」

党の支部から推薦をうけたときは断つた。それは自分はその任ではないし、一党一派でやれる仕事ではないからだ。その後地元からどうしても道議をおくり出すべきだという運動がおこり、他の町村から綱走緑の場合、足寄が立地条件からい、と協力の旨が伝えられ、町の理事者や議員各位も発展途上のこの地帯に欠けているのは中央への政治的なつながりだと聞かされ、誰かをおくり出すべきだ、ということばを考えていたが、まさか私自身が推されるとは思つていなかった。私は適任とは思つていないが、他に――

物色できないというし、特に農民指導層から強く、出馬を要請されたので、昨年十一月十一日の町をあげての地元道議推薦大会で正式に決意をしたわけだ。おそらくこの機会を逃して足寄から道議を出すというときには当分あり得ないだろうという見通しから、私は敢えて途をひらくためにガラでもなく乗り出したわけだ――あなたは事業家としては申し分ないが、政治家としては果してどうかという声もあるが――

勿論、野心も名譽欲もないので、これまでに政治的な動きは避けてきたズブの素人なので不安をもたれるかもしれないが、私はハッタリとかケヒキの恥張政治家ではなく、素直に道民の声

ために
——川上貞通氏

合併後の新町としては私は一選目だと思っている。前回に高橋安藏氏との話し合いもあり態度を明らかにしているが、暮になつて私に再出馬を求める人々に押しかけられ強く推薦をうけ、どうしても受けなければ強引に屈けたとまでいわれお任せした。

―再度立起の理由は――

実は合併当時の五ヶ年計画

りた
い
—高橋安蔵氏

「一年前すでに町民大衆に立起を声明していたが改めて今日の心境をききたい」

国は川上氏から一期だけつづてくれといわれ、合併問題もとうてい解決できな

る。どうしよう方針であられるかをうかがいたい」といふので、理事者は

「中間駅問題もそう二級国

道問題もそうで、事業者は

執行する立場にうつって

大いに働かせて頂きたいと思つている。」

説社

ことしは選挙のあたり年

寄町の場合、ことしは三
の農業委員、四月には知
道議、町長、町議六
には参議院議員、場合に
つてその間に衆議院議員
の具合に、ことしは全
選挙のあたり年であつて
選挙のあたりにあつては待望
シマニヤにとつては希望
シマニヤとあるということ
あり、国民として道民と
て町民として、ことしく
いふ重大な年もないのであ
る、それはどういふ意味
が、おいてであろうか。

(二)

発的なリコールなり解散
なりというものがながい

り、それらの公取者は三年
なり四年なりの任期を終え
て、主権者である田民、道
民、町民の信任を問ふこと
になるのだが、新たに立候
補する人をめ含めてそれら
の人人を認めるのか認めな
いのかケジメをつけるの
が、この各種の選挙の目的
であつて、われわれの一票
一票のあつまりが主権者の
回答として表現されるのだ
から、国の政治も道の政治
も町の政治も、この洗礼を
うけてはじめてそのすすめ
方が決まるのであつて、そ
ういふ意味でことしは重大な
年だということになるので

選挙が近づくと、えてして
本紙のような小新聞が特定
候補のために利用されるた
めに、公取選挙法で特に制
限を設けているが、本紙は
幸いに選挙に関する報道
評論にやれるは大新聞並み
に自由になれる資格をもつ
ているので制限はうけない
が、それだからといつて御
都合主義の記事をしか頭な
読者を迷わす考えは手頃な
し、あくまでも誰に遠慮
もなく事実に即して書くべ
いものを書いてゆき、公正
な選挙がおこなわれるよう
に、そういふために役立つ
ような新聞としての役割を
果してゆきたい。

あり、これを提案した責任者としてそれらの懸案事項を果すべき責任があり、合併当時の赤字を再建債に依存したのが、この処理は三十五年度で返済が終り、これによつて町財政は自主性をとり戻し本来の姿となるが上水道、高校、新庁舎などの画期的な大事業をなし遂げたため、財政上の無理によつて生じた後始末をしないうで引退るのは無責任なことではないかと考えており町財政を確立して健全な軌道に乗せてから、然るものに後人へバトンを渡すのが筋道ではないかとも考えた結果である。

が、これは私的なことであり個人への徳義に属することなので、私は今さらこんな古語文を持ち出す気持はないが、私は何とかして町政に新風をおくりたいと思う高校を建てたり役場庁舎を建てたりして一応大きな仕事は終つたが、これからはこうした後始末的な町政でなく、町の立地条件にふさわしい積極的な発展策にものついた新しい動き方をすると考えたと考えている。私は足寄で生れて五十余年をすごし二十一年近くも議席を汚していたが後半は議長という司会者の立場におかれといたが、私人の体験と信念でこんどは直接町行政

合つてゆけば難しい問題も解決する筈で、ワラジきで町のすみずみまで歩いておれば不明なり腐題もおきないと思う。國や道の役所関係には顔なじりが多いので、そんなに交際費を使わなくても事はスムーズに運ばれるのではないかという自信も、とにかく私は億劫ならずに身体を張つて動きわりたいと思つている。

「高橋さんはまだ少し」という声もあるが人間はやらせてみなければ判らない。その任につくべくによつて評價されるものではないか。

町議会議長 大浦勉	中足寄牧野組合長 町議會議業委員	西村彦三郎	町議會議業委員	足寄農協組合長 町議會議業委員	美晴	加藤甚一	町議會議業委員
----------------------	-----------------------------	--------------	----------------	----------------------------	-----------	-------------	----------------

久弥田繁次郎	上利別	と か ち 新 聞 社	社 長 松 山 明 記 者 砂 山 民 藏	足 寄 商 工 会	会 頭 羽 磨 卯 吉 郎 副 会 頭 高 橋 安 藏 同 三 宅 隆 義 同 久 保 正 夫 專 務 理 事 土 田 今 吉	所 長 鈴木 正	道 東 造 林 株 式 會 社	社 長 岡 崎 光 三	阿 寒 硫 黃 所 鋳 業 所	副 社 長 森 泉 城 一
--------	-----	----------------------------	---	-----------------------	--	-------------------	--------------------------------------	----------------------------	--------------------------------------	---------------------------------

謹賀新年 一九五九年元旦					
足寄町					
町長 川上貞通		助役 諸戸大三郎		収入役 高野一義	
町議会					
議長 高橋安蔵		副議長 多田梅松			
教育委員会					
委員長 三宅隆義		教育長 神本三家雄			
農業委員会					
會長 近藤悦朗		町立足寄病院			
院長 橘英一		消防團			
団長 岡崎光三		副団長 片岡藤三郎		同 鈴木岩太郎	
大原茂		共済組合長		町議會議務委員	
齊藤昇		社会党支部長		町議會建設委員	
湯淺義雄		町議會産業委員長		西小PT会長	
工藤虎男		町議會文教委員長		厚生委員	
所啓一		町議會産業委員長			
星喜市		町議會文教厚生委員		齊須才一郎	
嶺和衛		郷土振興會會長		町議會議務委員	
委員長 甲斐周藏		委員 山口三太郎		同 高橋忠雄	
同 新海義宗		選舉管理委員會		遺族會	
會長 鈴木岩太郎		副會長 宮川一也		同 大浦政夫	
常務委員 三宅隆義		副常務委員 多田梅松		同 新海義宗	
民生委員協議會		同 多田梅松		社會福祉協議會	
會長 川上貞通		副會長 三宅隆義		同 多田梅松	

寄郵便局 局長 大井 木一	登郵便局 局長 安田 光信	八幡地郵便局 局長 高野 三郎	上利別郵便局 局長 久弥田厚二	フワン郵便局 局長 青木 衛	上足寄郵便局 局長 鷺足みどり	足寄駅 駅長 福島孝太郎	帶広統計調査事務所 足寄出張所 所長 大塚 正夫	北海道食糧事務所 西足寄出張所 所長 小林 兵蔵
西足寄森林組合 組合長 羽磨卯吉郎	足寄森林組合 組合長 日裏庄太郎	雪印乳業足寄工場 工場長 中仙道忠雄	日甜足寄詰所 所長 太田 勇	北海道銀行支店 支店長 兼平 一也	帶廣信用金庫 支店長 黒沢 數馬	足寄通運株式會社 社長 岡崎 光三	田谷荷機工業株式會社 事務 大通 健三	山本雄四郎 大 營 地